

県境を越えた地域の連携に関する研究

九州大学工学部 学生員 ○松元 啓輔 フェロー 桜木 武
正会員 甲斐 猛

1. はじめに

現在、国土庁では次期全国総合開発計画(新しい全総)を策定中である。この中間報告によると、人々の価値観、生活様式が変わり人口減少、高齢化、高度情報化時代の到来が見込まれる中で、広い圏域における個性的な地域間の連携と交流、地域の自立の促進が基本的に重要であり自己完結的まちづくりにとどまらない多様性のある地域づくりが求められている。

この様な中、連携・交流をより一層促進するため熊本、宮崎、大分の3県にまたがる77市町村が参加して九州中央地域連携推進協議会が設立された。

そこで、本研究では、九州中央地域連携推進協議会に加盟している、熊本県大分県
77市町村(図-1)を対象に、統計的な面から地域構造を分類し、域の要望がどのような背景や必然性から挙がっているかを検討するものである。



2. 研究の方法

本研究の進め方を図-2にまとめた。

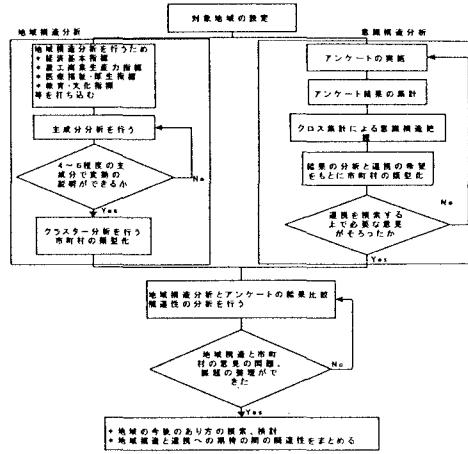
3. 意識構造分析

九州中央地域連携推進協議会に加盟している77の市町村を対象に、地域特性を踏まえた地域連携や交流に関する意識を知ることを目的にアンケート調査を行った。その質問内容を表-1に示す。この各項目に対するクロス集計を行い、どの

表-1 地域連携・交流に関する質問内容

A 特に期待すること
B 不安に思うこと、問題、課題
C 実際に着する分野
D 交流・連携のあり方
E 具体的な交流・連携先

のような意識を持っているかを検討した結果(表-



2), 以下のことが解った。

表-2 市町村の立地構造

項目	主な特徴
現地と不安全や問題分野	<p>1) 市民水産業の収益が期待し始め、財政的余裕の少なさ、交渉連携に関する知能不足で、効率的な市町村に不安や問題を抱えている。</p> <p>2) 観光の振興を期待し、財政的余裕の少なさ、通航便数に対する知能不足、市町村との意見調整による不安や問題を抱えている。</p> <p>3) 駐在員の任期満了による交代に期待し、人的、財政的余裕の少なさで、交連携に対する知能不足、父兄会員の要請に不安や問題を抱えている。</p>
現地と着手する分野	<p>1) 市民水産業の収益が期待し始め、市民水産業、観光リゾート等、公的部門の運営に着手したいと考えている。</p> <p>2) 高工農の振興及び生活保護費の全額のためには交通基盤整備が必要と考えている。</p> <p>3) 積極的にアートの振興や市町村の活性化に着手したいと考えている。</p> <p>4) 市町村民と市町村との連携に期待し、観光リゾート、एका、高工農等、担当者の意見調整による不安や問題を抱えている。</p>
現地と交連携度のあり方	<p>1) 市民水産業の収益に期待し、市町村には向こう見て、変遷を持つものと見做す。市町村は、市町村の運営に着手する。市町村は、市町村にない人物を補充しあうの内向と反対や反発を示している。</p> <p>2) 合意しないもののを補充する。あいのない市町村が約6割ある。</p>
期待と交連携度	<p>1) 市民水産業の収益に期待し、市町村には向こう見て、変遷を持つものと見做す。市町村は、市町村の運営に着手する。市町村は、市町村にない人物を補充しあうの内向と反対や反発を示している。</p> <p>2) 市外隣接市町村には観光の振興に期待している。</p> <p>3) 同一県内中核市町には市町村の交流の増加、高工農の振興、観光振興等、地域水産業の収益、余暇娛樂の実現による、社会的、生活環境の改善に期待している。</p> <p>4) 市町村内での運営、ない市町村には市町村の運営に期待しない現状にある。</p> <p>5) 市外隣接してない山町村には市町村の交流の増加、高工農の振興、観光振興、地域水産業の収益、余暇娛樂の実現による、社会的、生活環境の改善に期待している。</p>
不安や問題と着手する分野	<p>1) 財政的余裕の少なさで、交連携に期待する財政の少なさ、市町村との意見調整による不安や問題を抱えている。</p> <p>2) 交連携度数の整備に着手したいが、人の、財政的余裕の少なさで、交連携に期待する知能不足で、現状を抱えている。</p> <p>3) 不安や問題を抱えている。</p>
不安や問題と交連携度のあり方	<p>1) 市町村の運営に着手する。あいのない市町村が約6割ある。</p>
不安全や問題と交連携度	<p>1) 市民水産業の収益が期待し始め、財政的余裕の少なさ、交連携度数の整備に着手する。市町村は向こう見て、変遷を持つものと見做す。</p> <p>2) 市外隣接市町村には人、財政的余裕の少なさに不安や問題を抱えている。</p> <p>3) 同一県内中核市町には市町村の運営に期待する。市町村に不安や問題を抱えている。</p> <p>4) 他県中核市町及び同一内閣隣接しない市町村には市町村に不安や問題を抱えている。</p> <p>5) 同じ県の市町村は少ない。</p>
着手する分野と交連携度のあり方	<p>1) 同じ県の市町村で運営する人、財政的余裕の少なさ、交連携度数の整備に着手する。財政的余裕の少なさに不安や問題を抱えている。</p> <p>2) 市外隣接市町村には人、財政的余裕の少なさに不安や問題を抱えている。</p> <p>3) 同一県内中核市町では交連携度数に着手しないとと考えている。</p> <p>4) 他県中核市町及び同一内閣隣接しない市町村は市町村に運営に着手する。市町村に運営に着手する。</p> <p>5) 市外隣接してない市町村には市町村に運営に着手する。</p>
着手する分野と交連携度	<p>1) 同一県内中核市町では交連携度数に着手する。市町村は観光リゾート、地域水産業の共用化、共同販賣、自販や担当者の定期交代に着手したいと考えている。</p> <p>2) 市外隣接市町村を交連携度先に考える市町村は交通基盤に着手する。</p> <p>3) 同一県内中核市町では交連携度数に着手する。</p> <p>4) 他県中核市町及び同一内閣隣接しない市町村は市町村に運営に着手する。</p> <p>5) 市外隣接してない市町村を交連携度先に考える市町村は交通基盤の運営に着手する。</p>
着手する分野と交連携度	<p>1) 同じ県の市町村で運営する人、財政的余裕の少なさ、交連携度数の整備に着手する。財政的余裕の少なさに不安や問題を抱えている。</p> <p>2) 市外隣接市町村を交連携度先に考える市町村は観光リゾート等に着手する。</p> <p>3) 同一県内中核市町では交連携度数に着手する。</p> <p>4) 他県中核市町及び同一内閣隣接しない市町村は市町村に運営に着手する。</p> <p>5) 市外隣接してない市町村を交連携度先に考える市町村は交通基盤の運営に着手する。</p>
交連携度のあり方と交連携度	<p>1) おもいがないものの運営に着手しないと考へている市町村は交連携度数に着手する。市町村を直接して、その次に同一県内隣接市町村を直接して、</p>

- ① 中山間地域の基幹産業である農林水産業が高齢化や後継者不足により衰退が続き、農林水産業の基盤整備を行いたくても財政的に余裕がない状態にある。
- ② 効率的な連携方法を模索している。
- ③ 観光による交流人口の増加に期待しているが財政や他市町村との競合などの問題により効果や採算性に不安を持っている。
- ④ 中山間地域の基幹産業である農林水産業振興のためには、グリーンツーリズムや交通基盤整備が必要不可欠と考えている。
- ⑤ ある市町村だけの「点」の観光開発でなく、複数市町村が協力し合うことによる「線」の観光開発を考えている。
- ⑥ 財政基盤が弱いために交流や連携ではなくお互いにないものを補完し合うことを期待しつつ、その一方で他市町村の情報の少なさや意見調整に不安や問題を抱いている。他市町村との積極的な情報や意見の交換の必要性がある。

4. 地域構造分析

1) 主成分分析

地域構造を分析するため、人口・面積・財政等経済基本指標、農林及び工業生産力指標、商業販売力指標、文化・厚生指標等 21 項目を基に主成分分析を行った。その結果を表-3 に示す。累積寄与率は第 6 主成分まで 88.7% に達し、変動のほとんどが説明できる。

表-3 主成分の解釈

主成分	名 称	解 釈
第1主成分	都市的活動	人口、可住地面積、宅地、3次産業、生産額(農業・商業・工業)、医療施設、医師数、財政力指数と相関が強いことから都市の活動を示すと思われる。
第2主成分	山村的活動	面積、高齢化率、山林・原野、1次産業、自市町村での就業就学率が強いことから、山間地で(1次産業)の活動を示すと思われる。
第3主成分	農村的活動	田畠、1次産業、実質収支比率と相関が強いことから、1次産業(農業)の活動を示すと思われる。
第4主成分	商業的活動	2次産業、商業生産額、他市町村への通勤通学率と相関が強いことから他の地域に依存した2次産業活動を示すと思われる。
第5主成分	医療活動	人口千人当りの医師数と相関が強いことから、医療活動を示すと思われる。
第6主成分	財政状況	実質収支比率と相関が強いことから財政状況を示すと思われる。

2) クラスター分析

1) により得られた主成分をもとに Ward 法でクラスター分析を行った。得られたデンドログラムにしたがって市町村を分類すれば、図-3 が得られる。

宗太郎峠で大分県と宮崎県はお互いに背を向けているといわれている。しかし、地域構造は宮崎県北部地域と大分県とは非常に似た構造を持っている。また熊本市周辺の熊本都市圏は一種独特の構造を持っている。

5. まとめ

本研究では、地域構造上は宮崎県北地域と大分県とは非常に似た構造を持っているが、意識構造上、自市町村にはないものを求める傾向が強い。そのため、一種独特の構造を持っている熊本県との連携・交流を望む傾向にあることが解った。

今後さらなる地域構造による意識分析を行っていきたい。

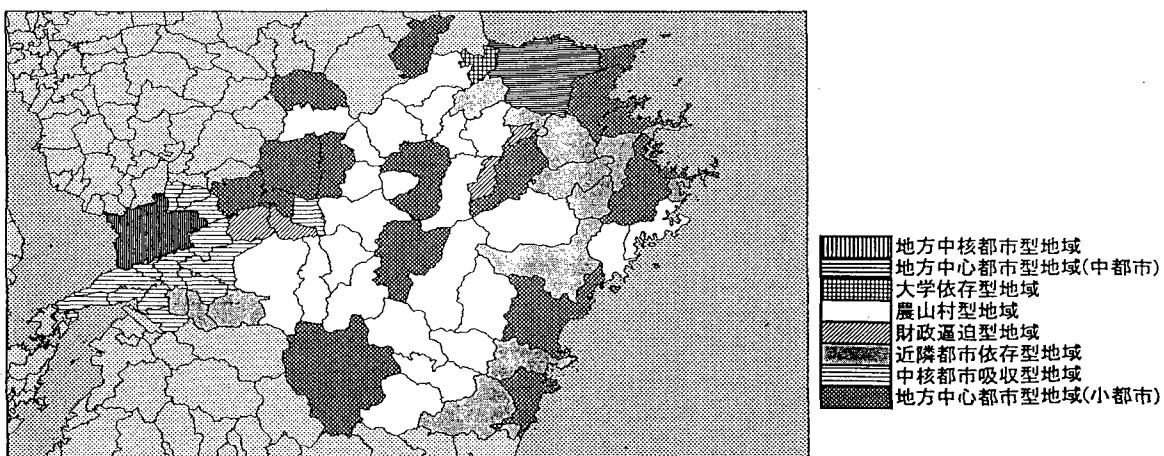


図-3 対象地域のクラスター分析による分類